

1 研究の趣旨

(1) 次期学習指導要領の方向性から

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）において、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」すべての領域において、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられている。また、「読むこと」の指導事項「精査・解釈」の中で、「評価すること」（「現代の国語」「言語文化」）、「批判的に検討」すること（「論理国語」）が示された。また、新しく設定される科目である「論理国語」では、実社会において必要となる、論理的に表現したり批判的に読んだりする資質・能力の育成が重視されている。

(2) 生徒の実態から

文章の内容を理解した上で、自分なりの意見を形成し、論理的に表現することが苦手な生徒が多い。評論文の場合、筆者の専門的知識に裏付けされた内容に対して、高校生が論理的に意見を構築するのは難しく、何か手がかりとなるものが必要がある。本文を批判的に読むことで抱いた、疑問や反論を出発点として考察を深める中で、本文の新しい価値に気付くなど、新たな発見を得て、筆者の論をなぞるだけではない意見が形成できると考えた。そこで、「批判的読み」を活用することで、本文について考えを深め、筆者の主張をそのまま受け入れるだけではない意見を形成しようとする姿勢が身に付けさせることができると考え、以下の仮説を設定した。

評論文の指導において、以下の手だてを講じれば、論拠に基づく自分の意見を形成する力が育成されるであろう。

【手だて 1】 新たな視点を獲得するための批判的読みを活用した授業の工夫

【手だて 2】 思考過程の可視化と自己の思考に対する客観的視点を生かした意見文の作成

【手だて 3】 相互評価の実施による意見文の検証

2 研究の概要

(1) 【手だて 1】 について

新聞投書を利用したり、教科書本文から生徒が抱いた疑問を授業の中心的課題にしたりすることによって、批判的読みの有用性を実感させることができた。また、抽象性の高い文章について、自分で筆者の主張にあてはまる具体例を挙げさせ、本文の検証を行ったことで、意見形成の際も具体例を自分で挙げようとする姿勢を身に付けさせることができた。

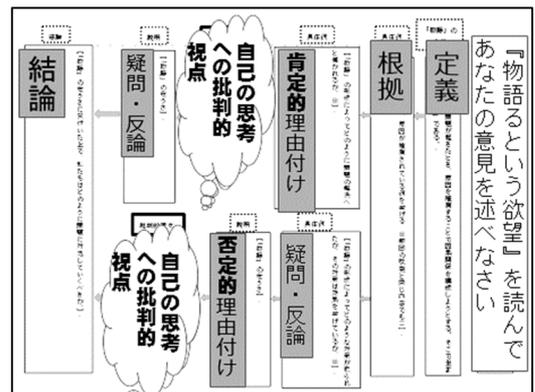
(2) 【手だて 2】 について

「構想シート」(図)を利用して意見文を作成することによって、論拠に基づき、批判的視点を活用して自分の意見を客観視させながら、意見文をまとめさせることができた。

(3) 【手だて 3】 について

評価の観点に沿って、批判的読みを活用しながら相互評価させることができた。特に、授業実践Ⅱでは、相互評価の前に、例文を用いて生徒と一緒に評価を行い、評価の内容を具体的に把握させた。また、対話的活動を取り入れ、対話を通して評価の意図を説明する機会を設定した。これらの活動により、相互評価を通して、生徒たちに意見文の改善点を把握させることができた。

図 構想シート



3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

意識調査では、評論文を読む際、筆者の主張に対して自分の意見をもとうとしている生徒の割合は 54.8%（授業実践Ⅰ事前）から 87.4%（授業実践Ⅱ事後）へ上昇した。また、今後批判的読みを使っていきたいと考える生徒の割合は 78.2%に及んだ。また、授業実践後は、内容の妥当性に課題は見られるものの、すべての意見文において、文中に根拠と理由付けを入れ、論拠に基づいて意見を述べようとする姿勢が見られた。

(2) 今後の課題

形成した意見を文章にする際に困難を感じている生徒が多く、授業実践Ⅱのポストテストにおいても、文章構成や表現に課題が見られた。「書くこと」の領域と関連させた指導が必要であると考えられる。